

医療区分に関するアンケート

～ 集計結果報告 ～

日本慢性期医療協会
会長 武久 洋三
医療保険委員会委員長
太田 照男

日本慢性期医療協会では平成21年4月に、医療療養病床の患者の状態像を把握する調査を実施いたしました。その結果、医療区分の割合、入院から退院までの医療区分の変化、患者の転帰、等の状況をまとめましたので概略をご報告いたします。

医療区分2・3が入院患者の71.4%を占めている。

医療区分2・3において、それぞれの項目が3つ以上合併する超重症および準超重症の患者は6.4%である。

退院先は、介護保険施設へ18.7%、在宅へ23.8%となっており、計42.5%が軽快退院したと思われる。

死亡退院は36.7%を占め、看取りの機能も大きい。

医療区分1で入院した患者は50.3%が退院している。

医療区分3であっても25.4%が退院し、その中でも2ヶ月以内の退院がほとんどである。

概して医療区分が高くなるほど死亡退院が増加している。

死亡退院は入院時の医療区分も高く、死亡時はさらに状態が悪化している。

入院継続者は医療区分2のあたりを横ばい。

退院患者の状態は軽快方向にある。

以上